



「風あげを通して風と関わる」  
風の町 苫前を象徴する牧場

# 上平グリーンヒル ウインドファーム

るもい風土資産カード

国道232号を北に向かって走り、苫前町に入ると、大きな風車群が見えてきます。これは自然の浜風を利用した国内最大級の大型風力発電施設で、約300haもある上平共同利用模範牧場敷地内に建てられています。牧場では馬や牛たちがのんびりと草をはみ、その上空で巨大な風車のプロペラが力強く回転している光景が「上平グリーンヒルウインドファーム」の持ち味で、「風の牧場」と呼ばれる所以となっています。

夕暮れ時の景色が美しいことでも知られており、夕陽をバックに、茜色に染まる風車がゆっくりと回る牧歌的な風景はまるで絵ハガキのようです。苫前町は風の街です。冬期にかけ当たり前のように吹き荒れる強風は「厄介者」でしたが、この風を地域の大きな財産と再認識するようになりました。そのきっかけの一つが風あげです。苫前町は、明治初期からニシン漁で賑わいを見せ、これに従事するため青森地方から出稼ぎ労働者として来たヤン衆たちの中には、漁期の終了後も当地に根づく人が数多くいました。ヤン衆たちは、特有の浜からの強い風を利用して津軽風(たこ)をあげ、故郷を偲んだといえます。大空いっぱいに広がる大風や連風の妙技は迫力満点で見ると魅了し、やがて冬場の一大イベントの「風あげ大会」へと発展しました。風あげを通して、地域住民は風との関わりを一層深め、官民挙げて風力発電に取り組むという発想へとつながったというわけです。

運転開始から20年が経過し高経年化が進んだため、2020年10月から順次リプレース工事が開始され、リプレース後の風車は、大きいものでタワーの高さが約98m、三枚羽根のブレードの直径は約117mで、地上から羽根の先端までの高さは約157mもあります。ここから生み出される総発電出力は5万600kW。これは平均的な一般家庭が使用する1年間の電力消費量に換算すると約3万1000戸分に相当します。発生した電力は電力会社に販売されています。

## 見どころ

300haの牧場内に、地上から羽根の先端まで高さが約157mもある風車が立ち並ぶ姿は迫力満点です。夕暮れ時の景色が美しいことでも知られています。夕陽をバックに、茜色に染まる風車がゆっくりと回る牧歌的な風景は絵ハガキのようです。

## ポイント

国道沿いの丘は、天売焼尻の離島と風車を一望できる絶景ポイントとなっています。町内では風車の絵をあしらったコーヒークップやキーホルダーなどを販売しており、風車めぐりのお土産に最適です。

## 五感で感じる！ 風土資産の魅力

聴 触 味 嗅 知

聴

なだらかな丘陵地帯に広がる牧場に、白いモダンな風車の森が新しい景観美を見せてくれ、風を切るダイナミックな風車の音が印象的に耳の奥に残ります。

知

自然環境との共生を積極的に進めてきた集大成が風車の森「ウインドファーム」。観光の町として弾みとなっただけでなく、環境問題の意識啓発を通して「風のまち」として誇れるまちづくりが実現しました。交流とクリーンエネルギーの、21世紀型の町・苫前町は全国から注目されています。

## ■基本情報 (R7.3)

住 所：苫前郡苫前町字上平23番地  
(上平共同利用模範牧場内)  
T E L：0164-64-2315  
(苫前町建設課風力発電係)